

The DIY SQUARE mag

VOL.9

CAINZ CARD POINT

50pt
present!!!



アンケートでポイントプレゼント!!

Special
Feature:

Meet the DIYer Paradise

特集
世界のDIYerを訪ねて
[サンディエゴ編]
feat. LEO Guimarães

➡ CAINZ CARD POINT 50pt Present!

アンケート回答でカインズカードポイント50ポイント進呈!

アンケート締切:10月31日

※ポイントは締切の翌月中旬頃に付与します。号ごとに、おひとり様1回までご参加いただけます。

M

Meet the DIY Paradise



PLACE:

San Diego / California, USA

PERSON:

LEO Guimarães

ライフスタイルに合わせたこだわりの自己流DIY!

サンディエゴの眺めがいいビーチで待ち合わせをすることにしたのはローカルサーファーのリオ。彼がピックアップトラックのカスタムをしていると聞き実際に手掛けた車を見せてもらうことにした。ところで、ピックアップトラックと聞いてどんな車かすぐに思い浮かぶだろうか？ アメリカでは定番の形でセダンのような運転席と天井がない荷台を合体させた車といえばわかりやすいかもしれない。1980年代に日本製のピックアップトラックが農作業や工事車両としてアメリカで人気となり、1990年代には家庭用の車としても浸透した。日本だと軽トラを想像するかもしれないが、アメリカでは農家やサーファーから好まれているピックアップトラックと呼ばれる形の方がメジャーだ。実際に日本の軽トラックより背が低く、アメ車に

比べれば燃費も悪くない。では話を戻そう。待ち合わせ場所に行ってみるとリオは仲間のクリスチャンと彼女のサマー、そして車2台と一緒に待っていてくれた。2003年式のシボレーのエクスペリスがリオの作品兼住まい、そして1985年のトヨタのハイラックスがクリスチャンの愛車だ。

「僕はサンディエゴのエンシニータスというところで生まれ育った。ピックアップトラックのカスタムはパンデミックで時間ができて本格的に始めたんだ。今までに友達の家も含めると6台手掛けたんだけど、このシボレーが今の僕の家、バンライフをしているよ。この車に約\$1,000ドルぐらい使ったかな」。塵ひとつ落ちてない綺麗な車内は素人目には完璧な仕上がりに見えるがまだ途中というから驚く。楽器や



DATA:

リオ・キマランイス。サンディエゴ・エンシニータス出身。小学校時代はブラジルに住んだこともあるが12歳の時にエンシニータスに戻る。週に3回ビザ屋のデリバリーとして働いている。ペイントやヴィンテージの収集、サーフィンなど多趣味なカリフォルニアボーイ。



1



2



3



4

1. リオと彼女のサマー、相棒のクリスチャンと愛犬で記念撮影。 2&3. 限られたスペースの中にもアイデアが詰まっている。サーフボードの収納も美しい。 4. 友人のクリスチャンの愛車トヨタのハイラックス。荷台は足を伸ばして寝られる広さ。

ヴィンテージのクッション、雑貨などが整然と飾られていてリオのセンスが随所に感じられる。また棚や引き出しをたくさん作ったことで収納力もあり見た目にも美しく、ウォーターサーバーの設置など暮らしやすいよう細部にまでこだわっている。

「元々は父親がDIYが好きでそれを見ながら基礎を学んだ。高校生の時に小さい木製の作品をつくったことはあったけど、最初のトラックを手掛けたのは22歳の時。最近ではわからないことがあるとYouTubeで調べているよ」。木材などをローカルのホームセンターで調達すれば基本的に何でもつくれるという。ビルディングキャンパーのクリスチャンが乗るトヨタのハイラックスはふたりで組み上げた。「1985年ぐらいのトヨタのハイラックスをクレイグスリス

ト（アメリカのクラシファイドコミュニティサイト）で見つけたのが今年の9月。この車をピックアップしたその足でホームセンターに行き5時間後にはこの状態に仕上げていたよ。この車はキャンプやサーフィンに行くにはちょうどいいサイズ感なんだ」。実際に荷台にマットと寝袋を敷けば余裕で寝れるし、木の香りも心地よい。年月をかけて木の味わいが出てくるのも楽しみめのひとつだ。

「最も難しいのはすべてのパーツにズレがないようにフィットさせること。そして持ち主のライフスタイルにインテリアを合わせることにも気を配っているよ。次のプロジェクトは友達のキャンピングカーを手伝うことになっているんだ。そこでも新しい学びがありそうで今から楽しみだよ」。



Real Vanlife



今回のDIYerは…

広報部 井村安世さん

従業員向け情報発信を企画・運営。
子育てを機に里山に移り住み、発
酵食品やDIYを楽しんでいる。



みそソムリエ、ぬか漬けソムリエ、梅マイスターなど、さまざまな資格を持つ
井村さん。「流れている時間をうまく、楽しく使っていきたい」。
そんなテーマを胸に、人生を謳歌するためのさまざまなことにチャレンジ中！

暮らしにまつわることを 楽しくしたい。

味噌や梅干し、糠漬けなど、日々の食卓
に欠かせない調味料を手作りしている井
村さん。きっかけは第一子の誕生で、子
供の健康を気遣いたい。そんな気持ちで
食について調べ始めたところ、発酵食品
に辿り着いたのだそう。



「楽しい!」と思えることを 増やしていく。

「カインズでサポートしているサッカーチー
ムを盛り上げたいと、以前応援グッズを自
作しました。電動工具を使ったモノ作り
にもチャレンジしてみたいです」。井村さん
の“楽しいこと探し”の日々は、これからも続く。



その作業が人生を ますます豊かにしてくれる。

発酵食品は、材料を混ぜて置いておくだ
けでOK。ただ年齢を重ねるだけではなく、
流れる時間の経過を楽しむのが人生
のテーマだと話す井村さんにとって、時
間が経つほどに美味しくなるのも嬉しいポ
イントだ。

ONE POINT



朝に野菜を仕込むことで浅漬けにな
り、夕食時に塩分を気にせず食べ
られる。「料理は苦手だけど、発
酵食品を作るのは楽しいんです。楽
しいことはやっぱり長続きしますね。そ
れが一番! アボカド、切り餅、ゆで
卵が私のベスト3です」。

HOW TO BE DIYers!

CAINZに勤務するDIYerにご登場いただき、DIYとの出会いや
DIYカルチャーについて紹介してもらう企画「HOW TO BE DIYers!」。
普段DIYを楽しんでいる現場にお伺いし、ご自身が考えるDIYについて語っていただきました!

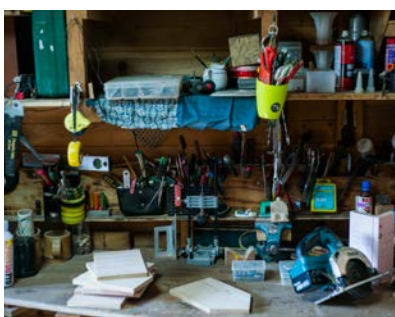
HOW TO BE DIYers! は CAINZ
DIY Square にて連載中! 以下 QR
コードからアクセスしてください!



ツリーハウスやピザ窯、囲炉裏部屋に子犬用の乳母車、
そしてチェーンソーを使ったカービングオブジェ。真島さんの自宅を訪ねると、
彼の夢と理想がたっぷり詰まった空間に圧倒される。

今回のDIYerは…

カインズ茂原店 真島義夫さん
建設会社で土木技師として26年
間働いた後、移り住んだ千葉のカ
インズに入社16年目を迎える。



木を切って、 何かの形にする。

昔から彫刻が好きだった真島さんが、最
初にDIYしたのは自宅の棚作り。その時
は工具のこともあまり知らずに、手探りで
完成させた。その後はチェーンソーの魅力
に惹かれて、丸太を切って彫刻作品を作
ることが趣味に。



想像したものを 自分の手で作る。

休日は趣味のモノ作りか野球に没頭する
毎日。作りたと思ったら作れる環境
を。そう思って自分で作った野外の作業
場は、雨も風も凌ぐ立派な仕上がり。失
敗や修正を繰り返して、今は快適な環境に
なっているそう。

ひとりで好きな時間に 没頭する。

庭には自家製のピザ窯と燻製器があり、
その横には小さな水車がある。水車の
写真を見ながら想像を膨らまし、2週間を
かけて完成させたという。好きなモノに
囲まれる空間で仕事でも楽しい時間を過
している。



ONE POINT

チェーンソーの魅力に惹かれて始め
た彫刻。色を塗ってみようと思い今
の形へ。彼の自宅は素直な感情に
包まれている。

